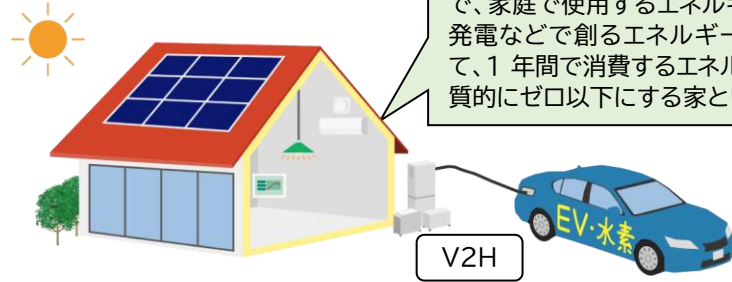


【家庭部門】の主な取組

家庭部門では2030年度にかけて二酸化炭素の排出を、世帯あたり800kg-co₂削減することが必要です

- ▶住宅の新築、購入に当たっては、ZEHなどの省エネルギー性能について検討します



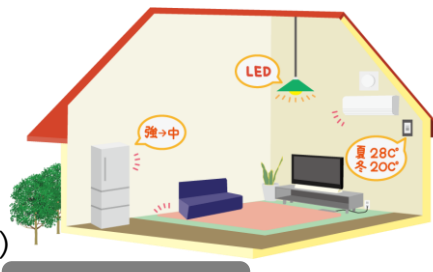
ZEHとは、net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略語で、家庭で使用するエネルギーと、太陽光発電などで創るエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家ということです

- ▶身近な省エネルギー行動を実践します(過剰な冷暖房・照明の利用を避け、省エネルギー家電の利用など)

取組内容	CO ₂ 削減効果	節約額(千円)
① ZEH住宅の購入	2,551 kg-CO ₂ /世帯	152
② 省エネ性能の高い住宅への引っ越し	1,131 kg-CO ₂ /戸	94
③ 断熱リフォーム(窓・サッシなど)	1,131 kg-CO ₂ /戸	94
④ 高効率給湯器の導入	70~526 kg-CO ₂ /台	6~35
⑤ 節水(節水シャワー、節水型トイレなど)	105 kg-CO ₂ /世帯	16
⑥ LED等高効率照明の導入	27※2台交換 kg-CO ₂ /世帯	3
⑦ クールビズ・ウォームビズ	41 kg-CO ₂ /世帯	4
⑧ 冷蔵庫の買換え	108 kg-CO ₂ /台	11
⑨ エアコンの買換え	70 kg-CO ₂ /台	7
⑩ HEMSやIoT家電の活用	88 kg-CO ₂ /世帯	9
⑪ 電力排出係数の改善(環境に良い電気を選ぶ)	777 kg-CO ₂ /世帯	-
⑫ 太陽光発電設備の設置	920 kg-CO ₂ /世帯	53

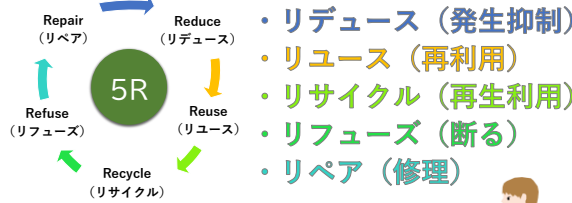
- ▶リフォームを行う際には、内窓や複層ガラスの設置、壁や天井への断熱材の使用などを検討します

- ▶商品の購入時には、環境負荷の低いものを選びます



- ▶室内への日差しを遮るサンシェードの設置や緑化など快適でエコな住まいづくりを目指します

- ▶リユース品の利活用を積極的に行います(5R)



- ▶家電や機器の買換え時には省エネルギー性能を比較検討します

- ▶移動などの環境負荷低減につながるオンラインサービスを活用します



- ▶食品配送に関わる環境負荷低減につながる地元食材を使用します



共通の取組

- ▶住宅、工場、倉庫、公共施設などには太陽光発電設備や蓄電池などの導入を検討します

- ▶使用する電気は再生可能エネルギー由来の電力を積極的に利用します

- ▶学校での環境学習や地域コミュニティなどへの出前講座の実施など省エネルギー行動を普及啓発します



- ▶駐車場などへのソーラーカーポートの導入を検討します



- ▶脱炭素化に向けた取組の必要性を踏まえた企業経営を行います



【運輸部門・産業部門】の主な取組

- ▶移動に当たっては、できるだけ徒歩や自転車、公共交通機関の利用を心掛けます

車に替えて徒歩や自転車を利用した場合(5km未満) 162kg-co₂削減



- ▶車両を共有し、必要な時に使用するシェアリングサービスを利用します

カーシェアリングを利用した場合 491kg-co₂削減

Car Sharing



- ▶運転時にはエネルギー消費の少ないエコドライブを心掛けます

5km以上の通勤に月1日公共交通機関を利用した場合 35kg-co₂削減



- ▶車両の更新時には電気自動車、燃料電池自動車などの導入を検討します

次世代自動車(EV、PHEV、HVなど)を選択した場合 610kg-co₂削減



エコドライブを実施した場合 610kg-co₂削減

- ▶物流施設や工場などの新築、改修時には建築物の省エネルギー化を推進します



太陽光発電もしくは再生可能エネルギー由来電力の利用で 920kg-co₂削減

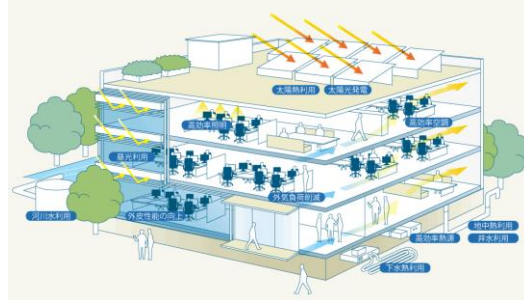


- ▶エネルギー管理システムなどの導入を検討します



【業務その他部門】の主な取組

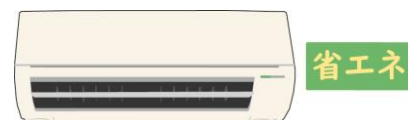
- ▶建築物の新築、改修時にはZEBなど建築物の省エネルギー化を推進します



ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)とは、建築計画の工夫による日射遮蔽・自然エネルギーの利用、高断熱化、高効率化によって大幅な省エネルギーを実現した上で、太陽光発電などによってエネルギーを創り、年間に消費するエネルギー量が大幅に削減されている最先端の建築物です

- ▶脱炭素化に向けた取組の必要性を踏まえた企業経営を行います

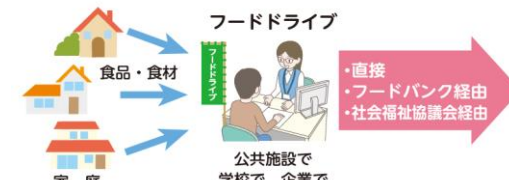
- ▶更新時には省エネルギー性能の高い機器などの導入を検討します



- ▶食品トレイなどは回収ボックスなどを活用して再資源化に協力します



- ▶使い切れない食品はフードドライブを活用します



マイボトル、マイバッグの利用、プラスチックなどのごみ削減で 28kg-co₂削減



フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンクなどの生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設などに寄付する活動のことです

食品を必要としている団体
・福祉施設
・生活困窮者の支援団体
・子ども食堂 など